

キャリアパス 人材育成

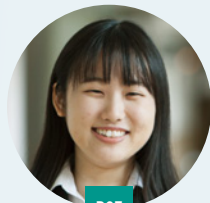
CAREER PATH

財務省でのキャリアパスのイメージ

1・2年目

係員

財務省職員として必要な知識・ノウハウを学ぶ。



P25

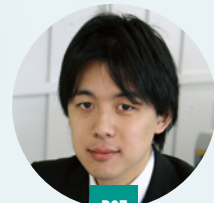
関税局関税課
第一参事官室

Miki HAYAKAWA
早川 美希
[平成27年入省]

3年目

国税調査官／ 金融証券検査官

地方の国税局・財務局で財務省行政の現場を学ぶ。



P27

広島国税局
国税調査官

Yuya IKEDA
池田 雄哉
[平成25年入省]

財政経済理論研修

修士レベルの経済学・財政学の知識を習得する。

4～7年目

係長

係のマネジメントを行い、政策立案のサポートを行う。



P25

関税局関税課 第一参事官室
国際機構係長

Nobuo TANI
谷 伸雄
[平成23年入省]

留学

語学の修得とともに、海外の大学院で修士レベルの勉強をする。



P28

パリ第二大学
Azusa OIZUKI (SATO)
老月(佐藤) 梓
[平成21年入省]

8年目

課長補佐

行政の最前線で政策の企画・立案の中心的役割を務める。



P29

大臣官房会計課
課長補佐

Ikuko SHIROTA
城田 郁子
[平成13年入省]

企画官・室長

重要事項についての企画・立案に携わる。



P31

IMF(国際通貨基金)
審議役

Kazuki WATANABE
渡邊 和紀
[平成7年入省]

課長・主計官

所掌事務の政策立案の責任を担う。



P33

理財局財政投融资
総括課長

Hiroyuki IGUCHI
井口 裕之
[平成2年入省]

女性職員からの メッセージ



P35

国税庁長官官房総務課
審査室長

Minami SANO
佐野 美波
[平成10年入省]



P36

大臣官房秘書課財務官室
課長補佐

Mayumi TOMITA
富田 まゆみ
[平成20年入省]



P36

大臣官房文書課

Tomomi SAKURAI
櫻井 智美
[平成27年入省]

注) 上記は代表的なキャリアパスであって、人事の方針により、今後変更される可能性があります。

係長・係員 インタビュー

はじめに

財務省に入省した職員はまず、係員として、係長の指導のもとで財務省職員として必要な知識やノウハウを学びつつ、政策立案のサポートを行います。ここでは関税局第一参事官室国際機構係の係長と係員にインタビューをしました。

現在のお二人のお仕事について教えてください。

谷係長 私たちの係の主要業務は、環太平洋パートナーシップ(TPP)協定などの国際交渉への対応です。真に国益に適った交渉を行うためには、日本政府全体としての意思決定を行う必要があり、国際機構係は、関税政策や税関の現場を所管する立場等から、その交渉を担っています。

係長としては、交渉方針の取りまとめ役として他省庁のカウンターパートや省内の関係者との間での調整を行う一方、周囲の方々との連携を密に取るなどにより、室内全体の業務が円滑に行えるよう心がけています。

早川係員 私の仕事は、係長の仕事をサポートすることです。必要な情報を収集して省内外の関係者に共有したり、各所からの問い合わせの窓口となって対応したりします。

他課室からの作業依頼を的確に室内各係に割り振ることもしています。

谷係長から見て、早川係員の良いところ、特にこの一年で成長したところを教えてください。

谷係長 忙しいときでも弱音を吐かず、懸命に取り組む姿勢にとっても感心しています。また、周りに気を配り、係が業務を行いやすい環境を整えてくれていて、いつも助けられています。初めは慣れないところもあったかと思いますが、入省1年目からTPP協定交渉の合意という大きな出来事を経験し、また、入省2年目の職員もよく面倒を見てくれたおかげで、いまではしっかりと自身の考えや意見を持って業務に取り組んでくれています。他課室との調整なども安心して一人で任せられるようになり、頼もしく感じています。

係長には、いつもどのように仕事を教えてもらっていますか？

早川係員 1年目だからといって甘えてはいけなと思っていますので、まずは自分で考えて動くようにしています。それから係

係員

関税局関税課
第一参事官室
国際機構係員

Miki HAYAKAWA

早川 美希

[平成27年入省]

長に相談します。係長は私の意見もしっかり聞いてくださいますし、間違っていることはちゃんと指摘してくださいます。仕事の詰めが甘く注意されることやミスをすることも少なくないですが、いつも優しくかつ的確に教えてください。

仕事の段取りや物事の説明の仕方、優先度を見極めて無駄なく仕事を進める姿勢や仕事におけるメリハリの付け方など、係長からは学ぶことが非常に多いです。また、係長のように目先の業務だけでなく長期的な視点も持って働けるようになります。

この一年でやりがいのあった仕事、大変だった仕事について、教えてください。

谷係長 やはり一番大変だったのが、日本が交渉に正式参加して2年以上に及んだTPP協定交渉がついに大筋合意に至った昨年10月のアトランタ会合への対応でした。交渉の延長に次ぐ延長のため、体力勝負となり、現地の交渉チームからの夜間の依頼に対応するため、朝まで交代で勤務することもありました。関係者が多く調整も大変でしたが、その分、歴史的な合意が実現したときは、大きな充実感やチームとしての一体感を感じることができました。

早川係員 1年目から新聞やテレビ等で大きく取り上げられる仕事に携わることができ、また議員の先生方が出席する重要な会議にも参加する機会をいただくなど、とても有意義で貴重な経験をさせていただきました。深夜遅くまで残って仕事することもあり大変な時期もありましたが、大筋合意という歴史的な案件に関われたことを嬉しく思います。

係長

関税局関税課
第一参事官室
国際機構係長

Nobuo TANI

谷 伸雄

[平成23年入省]

お二人の働いている第一参事官室の雰囲気について教えてください。

谷係長 風通しが良く、自分の意見を伝えやすい環境だと思います。係長、係員でも、自分で上司に担当案件を説明する機会も多くあります。また、税関の現場から出向してきている方々からもアドバイスをいただきながら、日々の議論を重ねる中で、新たに気づかされることも多いです。

早川係員 部屋はいつも和気藹々としていて、和やかな雰囲気の中で楽しく仕事ができています。交渉会合の後などは世界各地のお土産が集まるのも魅力の一つです!互いを気遣う雰囲気もあり、アットホームで過ごしやすいです。

就職活動中の学生へのメッセージをお願いします!

谷係長 就職活動中は、私自身も不安なことが多かったのですが、官庁訪問等で職員の方々と話をする中で、自分自身も向き合うことができました。その経験は、これまでの仕事においても大きなモチベーションの一つとなっています。就職活動は、自分の視野を広げる良い機会だと思います。是非、多くの人との出会いを大事にして、悔いの無い進路選択をしてください。

早川係員 財務省は、仕事の幅が広いだけでなく、面倒見が良い先輩が多く、優秀な先輩方や同期から日々良い刺激を受けられるので、成長の機会に恵まれていると思います。働く上で大切な職場の雰囲気を知るためにも、ぜひ説明会等で職員の声を実際に聞いてほしいです。いま悩んだこと、努力したことは決して無駄にはならないので、納得のいく決断ができるよう、精一杯頑張ってください。

係長と係員の一日

ここでは、TPP協定交渉が最終局面を迎えた際の、ある一日の流れについて紹介します。現地の交渉チームとの連携、限られた時間での関係各所との調整や意思決定など、そのスピード感を感じ取ってみてください。

09:00 登庁

交渉会合が行われている現地とは時差があるため、朝から、夜間の現地での交渉の動きなどをメール、電話などを通じて把握。報道なども確認し、情報を精査したうえで関係各所への必要な連絡を行う。

10:00 現地交渉チームからの依頼

現地の交渉チームから、慌ただしく依頼が飛び込んできた。前日の交渉で対立点が新たに浮上り、対処方針を策定する必要が生まれたのだ。めまぐるしく変化する現地の交渉状況に合わせて、対応を迫られる。係長は現地との綿密なやり取りを行い、その意向を確認。上司に相談の上、係としての大枠の対応を決定していく。係員は、省内の関係課室への連絡や、過去の資料等をもとに関連資料の作成を行う。

12:00 昼食

午前の業務がひと段落つき、お昼のニュースでTPP交渉の報道をチェックしたところで、係の皆で省内の食堂へ。仕事以外の話にも花が咲き、一休み。午後の業務に向けて鋭気を養う。

13:00 関係各所との調整

午前中に作成したその対処方針や関連資料について、関係省庁や省内関係課との間で調整を行う。それぞれの所管、専門的見地からコメントを加えていくことで、日本政府交渉団としての方針を形成していく。日本として最善の対応策を策定するためには、関係各局との間で、何度も調整を重ねていくことが不可欠となる。

15:00 幹部説明

関係各局との調整を経て作成した対処方針案は、幹部に諮り、政府としての方針を固めていく。係長は幹部説明にも同席し、上司の説明の補助を行う。幹部からの大局的な見地からの助言をもとに、再度、対処方針を練り直す。その間、係員は室内で関係各所との調整や問合せへの対応を行う。

17:00 大臣説明

交渉の重要な局面においては、逐次、大臣に最新の状況を説明し、政府としての方針を決定する。多忙な大臣には、短時間で交渉状況の報告や、対処方針の相談を行う必要がある。この日も、係が総動員で、直前まで現地からの情報収集等に努め、ぎりぎりまで資料の修正を行った。印刷後間もないまだ温かい資料を抱え、幹部室を駆け上がり、何とか大臣室へ間に合わせた。

19:00 夕食

普段は一日の業務を大方片づけリラックスできる時間だが、交渉会合期間中は、現地とのやり取りのため近場で食事を済ませる。

20:00~ 現地交渉チームへの連絡

これから交渉を控える現地の交渉チームへ、省内で策定された対処方針や関連資料等を送付し、併せて、その日の国内での動きや幹部から出された指示事項等を伝達。交渉を現地のチームに託し、慌ただしい一日の業務が終了した。



税制と企業の実情を 肌で感じる経験

広島国税局 国税調査官

Yuya IKEDA

池田 雄哉

[平成25年入省]

平成25年 大臣官房文書課



「新しい視点」と 「それでもブレないもの」

パリ第二大学

Azusa OIZUKI (SATO)

老月(佐藤) 梓

[平成21年入省]

| | |
|-------|---------------------|
| 平成21年 | 主税局調査課 |
| 平成23年 | 仙台国税局 |
| 平成24年 | 厚生労働省職業安定局 需給調整課 |
| 平成26年 | 留学(仏・ENA(国立行政学院)) |



納税者と向き合い、課税の公平性を担保する国税局

財務省本省総合職の職員は、3年目に国税局や財務局での勤務を経験します。私は、昨年の夏から今年の春にかけて、広島国税局で勤務しています。

皆さんは、国税局の業務をご存知でしょうか？日本国内の企業や個人には納税義務が課されますが、勘違いや不正により、正しい金額が納税されない場合があります。また、期限までに税金を納付してもらえず、滞納されることもあります。国税局では、帳簿等の調査や対話を通じて、誤っている場合は適正な納税額を伝え、滞納者には説得を行い、適正な納税が行われるよう支援・指導を行っています。

個別に見ていくと、きちんと納税されない理由は、様々です。ある税金滞納企業の経営者の方は、こう仰っていました。「きちんと納税をしたいと思っています。でも、借金返済に追われ、資金がないのです。納税より前に借金返済しなければ、会社が潰れてしまいます。」こうした訴えに対し、国税局職員は、経営改善計画・納税計画と一緒に考えてみます。頭ごなしに「とにかく最優先で手に入る現金を納税しなさい」と指示をするだけでも、滞納額の一部は確保できるでしょう。しかし、1年後、10年後はどうでしょうか。会社が潰れ、それ以降の



法人税が支払われなくなってしまえば、元も子もありません。現在だけではなく、将来に渡って納税をしてもらえるように、国税局では企業や個人と向き合っており、業務を行っています。

また残念ながら、悪意を持って納税額をごまかす企業や個人も存在します。そして悪意が強いほど、証拠が隠されたり、質問に正直に答えてもらえなかったりして、本来の納税額を導き出すのは大変です。時には、罵倒されることさえあります。それでも、諦めるわけにはいきません。不正を見逃してしまえば、嘘をついた人が得をする、正直者が報われない世の中になってしまいます。税制は、国税局職員が粘り強く調査を行い、適正な納税を確保することによって、公平性が担保されているのです。

地域・企業の実情

企業の納税額の調査は、その企業の業務内容についての説明を聞くことから始めるのですが、その説明からは、中国地方や各種業界の実情・今後の展望を垣間見ることができます。また、国税局職員から、「〇〇の制度は、××という点で、不正を働く企業が逃げ隠れしやすく、問題がある」といった税制の運用面から見た課題を教えてもらうこともあります。将来、政策を立案するに当たっては、こういった税制や地域の実情を見聞きた経験は、きっと役に立つと思います。

日本社会の扇の要

官庁は、企業活動や人々の生活をより豊かにするための基盤作りを行っています。そしてその官庁の中でも、他省庁と協働し、あらゆる分野の基盤作りに携わる財務省は、まさに日本社会の扇の要だと私は思います。扇の要がしっかりと初めて、扇はきちんと開き、美しい図柄が表れ、機能を十分に発揮します。皆さんと共に、根底から日本を支え、人々の暮らしをより豊かにするための業務に携わる日が来ることを、楽しみにしています。

フランス社会の光と影を知る

フランス留学1年目である昨年は、ENA(国立行政学院)の中央省庁の行政官を対象としたプログラムに参加し、フランスの政治・行政制度、マネジメント等を学びました。その中で、フランスの公共財政総局で7週間の実務研修を行う機会に恵まれ、フランスの非常に複雑化した税制について、その歴史的背景や、政策立案のあるべき形、さらには政治と行政の関係について、担当部局の職員と忌憚のない議論を交わせたことは、非常に有意義な経験となりました。

また、生活困窮者への援助を行う非営利団体での実務研修では、食料品の利用者への配布や生活相談等の活動に参加し、フランスにおける社会的弱者の実態、そして援助の限界についても理解を深めることができました。フランスは「大きな政府」の国として有名ですが、これは、貧困・格差・失業・社会統合などの問題について長く、そして深く悩まされてきた歴史の結果でもあり、こうした実態を自分の目で観ることができるのは留学の大きな醍醐味です。

留学2年目である今年は、パリ第二大学の修士課程で、フランス人の学生と共に、公共政策や行政学等を学んでいます。ここでも3ヶ月の実務研修が必修となっており、パリ市庁の雇用政策の部署でインターンシップをしています。厚生労働省で労働政策に携わった経験を生かし、日本との制度比較はもちろんのこと、国・自治体の役割分担や、産業構造の変化、非正規雇用問題といった日仏に共通する課題の考察など、日本での職務経験に裏打ちされた自分なりのアプローチを模索しています。

世界20ヶ国のクラスメイトとの友情

全く新しい環境で、知り合いもおらず言語も不自由ななか、生活基盤や人間関係をゼロから築くという経験は、苦勞も多いですが、自分を鍛え、度胸をつけ、そして世界の多様性と自

分の立ち位置を再確認する、またとない機会です。

ENAのクラスメイトは、フランス旧植民地であるイスラム圏をはじめ世界20ヶ国から来た国家公務員で、彼らと濃密な日々を過ごし、生涯の友と呼べる人を世界中に得たことは、人生における大きな財産となりました。また、フランス人の友人たちと、テロ、社会福祉、移民、エリート支配といった、時にセンシティブな論点についてとことん語り合い、互いの認識を共有するというプロセスは非常に大きな楽しみとなっています。彼らを通して新たな視点を獲得していることを実感する日々です。

色んな世界、価値観、人生… では自分はどう生きたいのか？

一度しかない人生。限られた時間とチャンスの中で、自分はどう生きたいのか。異文化に埋もれて暮らし、様々な世界の捉え方を知る中で、こう自らに問いかけることが増えました。幸いなことに、私の答えはいつも、財務省の門を叩いた時と同じです。世の中の不公平や理不尽を正し、正義の通る社会を作りたい。それが私が財務省で働くことを決めた理由です。

全てのものは同じところに留まっておらず、変化の激しい時代。世界における日本の位置付けも、霞ヶ関の役割も、公務員の働き方も変わるかもしれません。そんな中で自分はどう生きたいのか。何に取り組みたいのか。その答えを財務省で実現したいという皆さんをお待ちしています。



財務省の 仕事の魅力



学生へのメッセージ

財務省の仕事は、ハードなことも多い。でも、入って15年経つ今再び仕事を選び直せたとしても、私はやはり財務省を選ぶと思う。

学生さんと話をしていると、よく、「どんな時にやりがいを感じるか」との質問を受ける。一般的な仕事であれば「お客さんに喜ばれた時」、「成果が出た時」等があげられるのだろうが、率直なところこの職場では、そのいずれも感じやすいとは言いがたい。

『貞観政要』という中国古典に、鼓腹撃壤という有名な故事を引用した、以下のようなやり取りが出てくる。「国政が上手く行っているのだから、さぞや民衆は感謝しているだろう」と言う王に対して、臣下は、「伝説的に国を上手く統治していたと言われる堯王の時代ですら、人は国によって治められていると感じることはなく、毎日働き、食べ物を得ることで満足し、それで腹鼓をうち、歌い踊っていた(のだから、感謝など期待してはいけない)」と言った、という話である。この話ではないが、行政の行う政策やサービスに日々感謝する人というのは稀有である。

でも、それだからといってやりがいがない訳ではない。

私にとっての財務省とは、社会の色々な不公平やリスク(不安)を薄めて、未来を描こうとしている人を励まし、将来に向けた国づくりをする場。日本に住む人が描いている夢が、経済・社会の不測の事態によって実現できなくなるといったことのないように環境作りを行う職場。そんな財務省という職場で、時代の要請に応えながら素晴らしいチームで仕事し、成長し、世の中の動きに関われるのは、なんとも得難い経験であり、やりがいである。

大臣官房会計課 課長補佐

Ikuko SHIROTA

城田 郁子

[平成13年入省]



財務省職員のキャリアパス

Ministry of Finance

2001年

国際局総務課

新人時代

2001年春に財務省に入り、まだ上司からの指示をこなすので精一杯だった9月のある日。帰宅してテレビをつけると、旅客機がビルに突っ込む衝撃的な映像が飛び込んできた。後に9.11と呼ばれる事件だった。学生時代であればテレビの中の出来事であったような米国駐在者の安否確認、円高対策、テロリストの資産凍結、アフガン復興、イラク戦争といった一連の出来事が、財務省では自分の仕事と直結していて、次々と対応を求められていった。そうした経験を通じて、社会人となった私は、世の中で何か起きた時には「次に何が起きるか」、「何が求められるか」、「自分はどうすべきか」といったことを考える習慣ができたように思う。

2007年

国税庁査察課課長補佐

国際的な脱税を追って

2007年夏から、私は国税庁で脱税事案を取り扱う査察課、いわゆるマルサにいた。当時、脱税も海外を介したものが一般化しつつあり、それに伴い国税も「国際化事案」に注力していた。そんな中で私達は、特にタックスヘイブン(低税率国)で資産隠しを行っている人達の情報を集める手だてを、主税局や外務省の人達と探っていた。まじめに納税して下さる方々がほとんどな中で、一部の悪質な税金逃れを見逃すことは不公平だし、国家の信頼にも関わる問題である。2009年3月のある晩、ふと気づくと、携帯に多数の着信とメール。スイスが脱税に関して今後は国際基準に基づく情報交換に応じると発表したとのことで、それを喜ぶ関係者からの連絡だった。皆で喜びを分かち合い、世の中が動いたことに感動するとともに、すばらしい仲間に出会えたことに感謝した。

2011年

主税局税制第一課課長補佐

被災地のために何が出来るか

2011年3月11日午後2時46分、私は主税局税制第一課にいた。経験したことのない揺れに、小学校の防災訓練以来初めて机の下に潜った。揺れが収まり、テレビをつけると、東北地方の惨状が次々と映し出された。その当日、誰が言うともなく、私たちは書類倉庫に足を運び、1995年の阪神淡路大震災に関する資料を探し始めた。過去の震災対応を学ぶためだった。余震もまだ多く、被害状況の全貌が分からず皆が不安な中、智慧を絞り、できる限りの情報を集め、時には現地状況に思いを馳せ想像力も巡らしながら、被災地の人達の生活の助けとなりそうな支援策を盛り込んだ法案を作っていた。震災から1ヶ月余りの4月19日国会提出、27日成立・同日施行。政府として最初の被災者に向けた特別立法は、この税制の震災特例法だった。

2013年

理財局国債業務課課長補佐

揺れる国債市場で求められる役割

2013年4月4日午後、それまで動きの乏しかった国債金利を示す数字が突如めまぐるしく動き出した。きっかけは、日銀による量的質的金融緩和政策の決定だった。その後は、午前中に史上最低金利をつけたかと思えばその夕方には逆に跳ねている...というような有様で、長期金利は乱高下を繰り返し、急激な動きに日に何度もサーキットブレーカーが作動して市場取引が一時中断されることとなった。莫大な債務を抱える日本の財政当局としては、継続的に低コストで国債を発行すること、そしてその前提として、市場の状況に関係者との意見交換等を通じて把握し、必要な対応を行うことは欠かせない。市場関係者に電話をかけ、足を運び、ヒアリングを繰り返し、国債発行計画の見直し等を行った。政策を打ち出すには時に「待ち」が必要なこともこの時学んだ。

2014年

大臣官房会計課課長補佐

財務省の空気

財務省が活動するための予算要求・会計事務を行った、財務省で働いている職員が、それぞれの能力を発揮して存分に仕事にふるえる環境を作る一端を担っているのが、私が今いる会計課だ。財務省の仕事が社会の環境づくりだとして、さらにその職場環境を整える所だから、その存在は実に地味だ。ただ、その存在は大切だ。例えば人は、部屋の温度がちょうど心地よいと何も感じない。暑い・寒いとすぐに気づき不満が出てくるし、下手をすると仕事ぶりや健康にも影響する。だから、この仕事をする上で、目立たないことは一種、仕事が上手く回っていることの証なのだと思う。あって当たり前と思われているが、それが欠けると生きていけない。目立たないけれど、目立たないからこそ上手に行っていることの左証であるというような、そんな空気のような役割を担いたい。

いままでのキャリアを振り返って

財務省に入って15年。この間、めまぐるしく動く世界の躍動を感じてきた。自分のその時々々の所掌という窓から世の中を見渡して課題を探り、自分の良心に照らして感じ、考え抜いて改善・解決していくという仕事を通じて、この15年間は、新しい発見の連続だった。そして、多くの人との出会いに感謝する日々だった。かけがえのない人生の一時をこのような経験ができる場で過ごしていることに、感謝、感謝だ。



財務省での キャリアを 振り返って



学生へのメッセージ

1994年夏、「日本や世界に貢献する仕事をしてみたい。」との志を抱いて財務省(当時は大蔵省)を訪問しました。財務省が関係する多岐に渡る政策分野のみならず、自分の担当業務の説明に飽き足らず、日本や世界の諸課題について楽しそうに熱心に語る職員に強く魅かれたことを懐かしく思い出します。財務省では、若い頃は武者修行の連続です。入省間もない職員にも責任の大きな(=やりがいのある)仕事が任せられますし、その後も1~3年毎に新しい政策分野を担当することになります。また、他省庁、地方自治体、在外公館、国際機関等へ外向するなど国内外での他流試合の機会も豊富にあります。財務省では、省内・省外で多様な経験を積み、多くの人々に関わることを通じて、国家公務員としての成長に留まらず、人間性を磨いていくことが期待されています。

入省以来21年の私の財務省勤務において、二度の国際機関外向の機会を含め、財務省の内外で、予算、税制、国際金融など多くの政策分野に携わってきました。どのポストにおいても、財務省の政策が国内外の経済・社会に大きな影響力を及ぼすものであり、それ故に財務省の政策には、大きな期待が寄せられるとともに、大きな責任が伴うことを実感してきました。以下で御紹介するいわゆるキャリアパスはほんの一例に過ぎません。是非、財務省の門を叩き、多くの財務省職員からそれぞれの経験について直接話を聞いて頂きたいと思います。皆さんとお会いする日を楽しみにしています。

IMF(国際通貨基金)審議役

Kazuki WATANABE

渡邊 和紀

[平成7年入省]



財務省職員のキャリアパス
Ministry of Finance

1995年

主税局調査課

新人時代

入省後最初の仕事はドイツ税制の調査。入省式の後に案内された主税局調査課の自分の机の上に、ドイツ語の経済新聞の山と分厚いドイツの税法が置かれていたことを今でも思い出します(私の大学での専攻は経済学、第2外国語はフランス語です)。「ドイツ税制に関する君の見解がそのまま役所の見解となる。」との先輩の温かい激励(脅迫?)の言葉に、入省1年目の若手に随分無茶な要求をする職場だなと正直思ったのですが、辞書を片手に原語の資料を読み込んで作成した資料が、税制改正や中長期的な税制のあり方の検討に活用され、大きな責任とやりがいを感じることができました。

1999年

国際局国際機構課係長

G7サミット議長国

2年間の米国留学の後は、係長としてG7やIMFなど国際金融政策の企画立案を担当しました。2000年は日本がG7サミット議長国を務める年にあたり、同年夏の九州・沖縄サミット開催に向けて、G7各国のカウンターパートや省内外の関係部局との連絡調整にあたりました。1997年秋のアジア通貨危機に始まる一連の通貨危機から国際金融市場が落ち着きを取り戻す中で、IMF改革を中心とする国際金融システムの強化などの4つのテーマについてG7財務大臣からG7首脳への報告書をとらめました。ノートイカーとして同席した財務大臣代理級会合の議論が深夜にまで長時間に及んだ際には、眠気を抑えながら必死にメモを取ったものです。

2001年 大臣官房総合政策課課長補佐

財務省エコノミストとして

2001年夏、不良債権問題の抜本的処理の必要性が強調される一方、その本格的進展による企業倒産や失業の増加などのデフレ効果への懸念を払拭するため、政府の経済財政政策と日本銀行の金融政策との連携への期待が高まっていた頃、大臣官房総合政策課で課長補佐時代をスタート。各種指標等の分析による国内外の経済情勢や金融市場動向の把握に加え、日銀の金融政策決定会合に財務省代表として出席する副大臣等幹部の発言要領の作成などを担当しました。また、インフレターゲットへの関心が高まっていたことから、金融政策運営の枠組みについて調査のため欧州に出張する機会が与えられました。



2004年 米州開発銀行(IDB)審議役

ワシントン DCへ

2004年夏から3年間、米国ワシントンDCにある中南米・カリブ海(LAC)地域に開発融資等を行う国際金融機関であるIDBの日本理事室に外向しました。複数国からの外向者で構成される日本理事室は国際色豊かな職場で、直属の上司はイギリス国際開発省(DFID)出身のスコットランド人でした。また、外向中にIDBの第一公用語であるスペイン語習得のため約3週間メキシコでホームステイしながら語学学校にも通いました。世界的な好景気の下、LACの加盟国がIDBからの融資に消極的となる中で、開発効果の高い融資を如何に供給すべきかが大きな課題でした。2005年春、日本がホスト国として開催されたIDB沖縄年次総会は、沖縄の皆様のご協力と温かきもてなしのおかげで各国の参加者から高い評価を得ることができました。

2007年

主計局公共事業係主査

現 主計局国土交通係主査

公共事業予算

2007年夏から主計局で公共事業予算の査定を3年間担当しました。厳しい財政事情に加えて、公共事業に対する根強い批判がある一方、特に2008年9月のリーマンショック以降は、景気対策としての公共事業への期待が高まる中で、日本の経済活動を支え国際競争力を維持する上で真に必要な道路、港湾といった公共インフラを着実に整備し有効活用するにはどうすべきか、相手省庁の要求を聞くだけでなく、こちらからも積極的に提案し議論を重ねました。また、政権交代直後の2010年度予算編成は、公共事業予算の大幅削減が要求される厳しい予算編成でしたが、国土交通省の担当者の協力もあり、削減目標を達成することができた上、事業毎の補助金を整理統合して2兆円規模の交付金(社会資本整備総合交付金)を創設することができました。

2013年 IMF(国際通貨基金)審議役

再びワシントン DCへ

大臣官房秘書課で人事企画室長兼首席監察官、調整室長として人事関連の業務に3年間携わった後、2013年夏からIMFの日本理事室に外向しています。係長時代から十数年振りに再びIMF、国際金融政策と関わることになりましたが、G7に代わりG20が「国際経済協力に関する第一のフォーラム」となるなど、当時と比べ、世界経済やIMFを含む国際金融システムに関する国際的な議論における新興国の存在感が格段に増したことを肌身に感じています。世界最高のマクロエコノミスト集団であるIMFによる質の高い経済分析や政策アドバイスは、全てのIMF加盟国が裨益する重要な国際公共財です。IMF第2位の出資国である日本の考え方への関心は高く、世界経済を持続可能な成長へと導く上で各国のマクロ経済政策はどのような組み合わせが望ましいか、益々高度化・複雑化している国際金融システムにおけるIMFの役割は如何にあるべきか、世界中から集まる優秀な職員や他の理事室メンバーとそんな議論が真剣にできるのも理事室勤務の醍醐味の一つです。



これまでの 財務省生活を 振り返って

学生へのメッセージ

財務省による。私が初めて霞ヶ関を訪問したのは今から27年前。知り合いもない訪問でしたが、多くの先輩との魅力的な会話にあつという間に引き込まれたことを思い出します。

これまでに米国留学、地方・海外勤務をはじめ18のポストを経験し、それぞれにご縁を感じる出会いがありました。そうした出会いを経て感じるのも、やるべき仕事はいずれにもあり、様々な経験が、ダイナミックに進んでいく本省での仕事にどれだけ役立ってきたかです。また、「財務省の人だから」という看板は、経験を積む上でも意味を持っていたと感じます。

皆さんも、この就職活動や官庁訪問を通じ、財務省の各部署で国の重要課題と取り組む諸先輩と話す機会に恵まれることと思います。日頃から疑問に思っていること、新聞を読んでもわからないことなど、素朴な疑問について議論してはいかがでしょうか。財務省への訪問が刺激的な出会いの機会となることを願っています。



理財局財政投融资総括課長

Hiroyuki IGUCHI

井口 裕之

[平成2年入省]



財務省職員のキャリアパス
Ministry of Finance

1990年 大臣官房秘書課、調査企画課

現・総合政策課

新人・係長時代

入省した1990年は、バブル経済の終わりの始まりと、世界中の出来事に日本が主体的に関わらざるを得なくなった年でした。サダム・フセインのクウェート侵攻は採用活動を直撃し（学生に時間を割ける人がめっきり減った）、国会に手伝いに行けば、国連平和協力法案は空転の後に廃案。後に湾岸戦争となる事件は、日本の国際貢献についての大議論を巻き起こしました。その最中に官庁訪問してきた後輩の面々も、今や各分野の大黒柱として活躍しています。

留学後の係長は調査企画課（当時）。細川連立政権の下で経済対策に追われ、特別減税の翌年には、阪神・淡路大震災、地下鉄サリン事件が起きました。その騒ぎも醒めやらぬ内に日銀の短期金利低め誘導（1995年3月）が始まったのも、マイナス金利となった今では、感慨深い思い出です。

1998年 主税局国際租税課、税制一課・二課

（いずれも当時）

初めての課長補佐

本省最初の課長補佐は主税局でした。最初は国際課税担当として、租税条約交渉やOECDの会議で日本代表としての発言に緊張しました。後半は、法人税担当として、租税特別措置の合理化をめぐる党税調に日参し、最後は、連結納税制度の導入に向け、財源対策と法人税法の条文が二倍半にもなった法案・政省令の準備をバックアップしました。調整の難しい「税」の問題に取り組むため、一致団結して事に臨む主税局の良き伝統を、補佐の初めに体得できたのは実に得がたい経験でした。

2003年 在オーストリア日本国大使館、長野県企画参事

内閣府地方分権改革推進室

出向時代の思い出

外務研修や金融庁での法案手伝いを経て、三年間ウィーンでの大使館勤務（経済班長・一等書記官）を経験しました。時あたかもEU拡大で中東欧の加盟国が10カ国増える熱気あふれる時期であり、また、EU議長国としてのG20開催にあたり、谷垣財務大臣（当時）にも出張いただきました。イラク戦争後のOPEC（本部・ウィーン）の懸念は、同国の復帰による原油価格の暴落でしたが、その後のピークオイル論、シェールオイルの台頭を経た現在の原油市場の姿は想像もできませんでした。今では難民あふれるハンガリー・セルビア国境にも、ユーゴ内戦の舞台となったサラエボにも自家用車で旅行をしました。

帰国後しばらくして、長野県企画部では交通政策を担当し、昨春、金沢まで開業した北陸新幹線の並行在来線問題（しなの鉄道）、中央リニア新幹線のルート問題、JAL撤退をめぐるの信州まつもと空港の存続問題など、知事の特命担当として地元と東京を奔走する経験をしました。

後には、内閣府で地方分権を担当し、民主党政権下でいわゆる一括交付金（地域自主戦略交付金）の予算要求にも携わりました。総務省・地方自治体からの出向者と一緒に、現場の実態と政策の理念との狭間で悩むことの多い2年間でした。

2014年

主計局主計官

防衛関係費をめぐる攻防

「新常态」に至る中国経済の発展が著しい中、南シナ海での活動など我が国周辺の安全保障環境の脅威は高まっています。

防衛予算は、5年分の「中期防衛力整備計画」を基に防衛省と議論を進めますが、26中期防策定後、実質初年度となった平成27年度予算をめぐる、米軍再編経費・政府専用機取得費の計上などに神経を使う予算編成でした。

実は、地方勤務（花巻税務署長）から戻った最初の補佐ポストは防衛庁防衛局（当時）で、防衛政策課部員としては、いわゆるガイドライン（日米防衛協力の指針）改定をめぐる憲法上の論点を、調査課情報室部員としては、米州・大量破壊兵器などの情勢分析を担当しました。

主計局で再び制服・背広の方々と相見え、じっくりと防衛予算に向き合う機会が持てたことは本望でした。

2015年

財政投融资総括課長

財政投融资って何ですか？

名刺交換のたびに受ける質問ですが、知名度こそ低いものの国民生活に地味ながらも着実に貢献しているのが財政投融资です。「蛇口をひねれば財投」（上水道整備のための地方債引受けも財投の仕事）は前任者の名言でしたが、JICAの円借款も、有利子の奨学金も、待機児童解消のための保育所設置も財政投融资なしには語れません。また、官民ファンドなどへの長期リスクマネーの供給も手がけています。

個別機関の調整は2人の計画官が担当し、財投総括課の総勢38名は、計画編成を取り仕切る左サイドと、資金勘定の資金繰り・リスク管理担当の右サイドに分かれて日々の仕事に取り組んでいます。

28年度財投計画は13.5兆円とこれまでの最小額ですが、長期の貸付金を含めたストックの運用額は130兆円を超える一大規模「金融機関」でもあり、低金利環境を生かした更なる活用も期待されています。

一期一会の精神で

“Fronte capillata, post haec occasio calva.”（「好機の女神は、前はフサフサ、後ろは禿げ」）。就活もこの時期になると、「チャンスは前髪をつかめ」で知られるこの格言を感慨深く噛みしめることができるのではないでしょうか。

人でも、仕事でも、人生には思わぬ出会いがあるものですが、この冊子を手にとられた皆さんが大きなチャンスを掴む機会に恵まれることを願っています。